

# 福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和7年第23週（令和7年6月2日～令和7年6月8日）

福岡県感染症情報センター

## ■ コメント

- ・ 伝染性紅斑の定点当たりの報告数が3.30で前週の約1.5倍となり、2006年以降、過去最多となりました。本疾患は、微熱や風邪様症状の後、両頬がリンゴのように赤くなる発しんが出現します。特に、過去に本疾患に感染したことのない妊婦が感染すると、流産のリスク等となる可能性があります。ウイルスの排出量は発しん出現前が一番多く、咳などの飛沫や、感染者との接触で感染するため、適切なマスク着用やこまめな手洗いにより感染防止に努めましょう。
- ・ 福岡県感染症情報ホームページ([https://www.fihs.pref.fukuoka.jp/~idsc\\_fukuoka/](https://www.fihs.pref.fukuoka.jp/~idsc_fukuoka/))では、感染症発生情報、病原体検出情報などをご覧になれます。

## ■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	15	302	216	5,408
腸管出血性大腸菌感染症	7	59	38	632
日本紅斑熱	1	3	28	139
レジオネラ症	3	23	54	744
カルバペナム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	40	12	615
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	39	17	683
後天性免疫不全症候群	1	17	10	334
侵襲性肺炎球菌感染症	1	79	49	2,016
水痘（入院例）	2	12	15	262
梅毒	6	333	219	5,722
百日咳	109	1,379	2,329	25,037

## ■ 定点把握疾患報告数

：警報レベル（※）

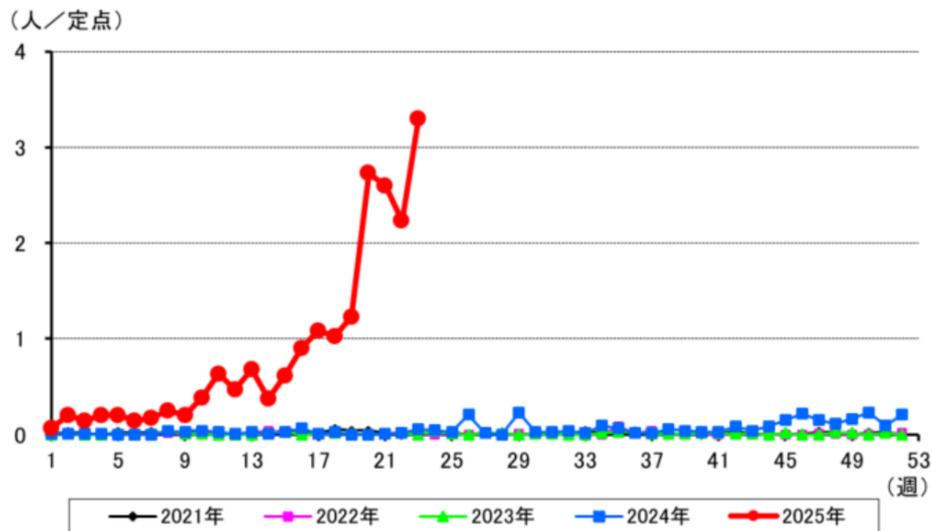
：注意報レベル（※）

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	86	0.70	1.04	3,227	0.84
インフルエンザ	60	0.49	0.65	1,677	0.44
急性呼吸器感染症	6,307	51.70	1.04	225,623	58.63
RSウイルス感染症	18	0.26	1.50	619	0.26
咽頭結膜熱	81	1.16	0.95	1,549	0.66
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	298	4.26	1.05	6,860	2.91
感染性胃腸炎	654	9.34	1.07	15,346	6.51
水痘	20	0.29	0.67	1,387	0.59
手足口病	10	0.14	0.48	375	0.16
<b>伝染性紅斑（警報レベル）</b>	<b>231</b>	<b>3.30</b>	<b>1.48</b>	<b>4,402</b>	<b>1.87</b>
突発性発しん	39	0.56	1.11	892	0.38
ヘルパンギーナ	108	1.54	1.61	288	0.12
流行性耳下腺炎	5	0.07	0.45	223	0.09
急性出血性結膜炎	0	0.00	0.00	28	0.04
流行性角結膜炎	14	0.54	2.80	523	0.75
細菌性髄膜炎	0	0.00	-	10	0.02
無菌性髄膜炎	1	0.07	-	21	0.04
マイコプラズマ肺炎	3	0.20	0.50	172	0.36
クラミジア肺炎	0	0.00	-	4	0.01
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	9	0.60	1.80	69	0.14

（※）令和7年第15週からの定点医療機関の減少等に伴い、従前の警報及び注意報の基準値を直ちに当てはめることはできません。そのため、国が警報及び注意報の取扱いを検討することとしています。取扱いが示されるまでの間、本県では従前の基準値で運用することとします。

# 伝染性紅斑の感染者が過去最多となりました

令和7年第23週（令和7年6月2日～令和7年6月8日）の伝染性紅斑の定点当たりの報告数が、2006年以降で過去最多（定点当たりの報告数3.30）となりました。



伝染性紅斑を予防するワクチンや薬はないため、かぜ症状のある方は石けんと流水による手洗いをこまめに行う、適切なマスクの着用、咳エチケット等の基本的な感染対策を心がけましょう。

## 《妊婦の方へ》

過去に伝染性紅斑に感染したことの無い女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発疹が出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がない場合（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師にお伝えください。

## 【伝染性紅斑とは】

伝染性紅斑の病原体は、「ヒトパルボウイルス B19」で、頬に出現する蝶翼状の紅斑を特徴とし、小児を中心にしてみられる流行性発疹性疾患です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ（ほっぺ）病」と呼ばれることがあります。

## 【感染経路】

感染した人の咳のしぶき（飛まつ）を吸い込むことによる「飛まつ感染」や、感染者と接触したりすることによる「接触感染」です。感染してから発症するまでの潜伏期間は10～20日程度です。

## 【症状】

発症初期は微熱や風邪様症状などがみられ、7～10日後に両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がります。これらの発しんは1週間程度で消失します。頬に発しんが出現する7～10日くらい前に見られる、微熱や風邪様症状の時期にウイルスの排出が最も多くなります。発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。